

1. 検査受付



(1) 受付時間

月～金（平日） 8：30～16：30

2. 検体の取扱い

- (1) 尿一般検査の採尿の際は、検査直前の激しい運動を避け、採尿前に尿道口を清拭後、中間尿を採取することが望ましい。
- (2) 尿定性検査と尿沈渣定量（尿中有形成分定量）検査の依頼検体は遅くとも4時間以内に検査する必要があるため、採尿した検体はすみやかに提出する。
- (3) 尿中有形成分定量検査において異常所見が認められたものは、顕微鏡検査法（尿沈渣所見）による報告を行う。
- (4) 尿定性検査，尿沈渣定量では採取バーコードラベルが2枚発行されるので，1枚を検査部提出用滅菌スピッツに貼る。もう1枚は尿カップ(尿採取用)に利用できる。
- (5) 赤血球沈降速度測定は、採血後、室温で2時間以内、4℃で6時間以内となっているが、原則としてなるべく早く測定する必要があるため、採血した検体はすみやかに提出する。
- (6) 髄液細胞数は、採取後、1時間以内に検査を開始する必要があるため、採取した検体はすみやかに提出する。

3. 検査項目

コード No.	検査項目名	検査方法	基準値	検体量 (mL)	所要日数	備考	基準値の出典 (引用)
83	尿定性検査	試験紙法	*1		1		臨床検査法提要 第35版
84	尿中有形成分定量（尿沈渣定量）	フローサイトメトリー法	*2	尿 10.0	1	滅菌スピッツ	機器メーカーの参考資料（シスメックス）
90	赤血球沈降速度測定（血沈）	画像処理による自動化法（Westergren 変法）	1時間 男 2-10 mm 女 3-15 mm	血液 1.8	1	専用採血管	臨床検査法提要 第35版
91	髄液細胞数	フローサイトメトリー法	5 個/μL 以下		1	滅菌スピッツ	臨床検査法提要 第35版
92	髄液細胞分類	フローサイトメトリー法	単核球 97-100% 多核球 0-3%	髄液 0.5	1	スピッツ(保存検体不可)	

						2020.10 分類基準 値変更	
715	I g G インデックス	IgG インデックス：計算* ³ 血清 IgG, リンゴ IgG, リンゴアルブミン：初 エロメトリ 血清アルブミン：BCP 改良法	0.73 以下* ⁴	血清 0.5mL お よびリンゴ 0.5mL	1~3	真空採血 管青およ び滅菌ス ピッツ	参考文献 (Animus 8,38,2003)
90	糞便中ヘモグロ ビン	ラテックス凝集法	(-)	糞便	1	専用容器 あり	機器メーカー の参考資料 (栄研化学)

* 3 : I g G インデックス = (リンゴ I g G ÷ リンゴアルブミン) ÷ (血清 I g G ÷ 血清アルブミン)

※ : リンゴアルブミン (mg/L) と血清アルブミン (g/dL) は、測定単位を mg/dL に変換して計算に用いた。

* 4 : 外注先と同じ基準値を採用 ($y = 0.9x + 0.04$, $r = 0.937$, $n = 11$)



* 1 : 尿定性検査基準値

検査項目名	検査所要時間	基準値	備考
pH	20 分	4.5~7.5	2020.10 基準値変更
比重		1.005~1.030	
蛋白		(-)	
糖		(-)	
ケトン体		(-)	
潜血反応		(-)	
ウロビリノーゲ ン		(+-)	
ビリルビン		(-)	
亜硝酸塩		(-)	
白血球		(-)	2012.4 項目追加



* 2 : 尿中有形成分定量スクリーニング基準値 (**1)

検査項目名	検査所要時間	男性	女性	備考
赤血球数(RBC)	1 時間	13.6 個/ μ L 以下	22.7 個/ μ L 以下	2012.4 変更
白血球数(WBC)		13.2 個/ μ L 以下	16.9 個/ μ L 以下	
上皮細胞(EC)		5.2 個/ μ L 以下	39.6 個/ μ L 以下	
円柱(CAST)		0.40 個/ μ L 以下	0.56 個/ μ L 以下	
細菌数(BACT)		26.4 個/ μ L 以下	130.7 個/ μ L 以下	

**1 : スクリーニングとしての異常値マークの判断値 (患者尿から算出した臨床参考範囲の上限値, シスメックス (株)資料)

表 検査方法, 基準値 

- 表 1. [\(1\)生化学検査 1](#)
- 表 2. [\(2\)生化学検査 2](#)
- 表 3. [\(3\)生化学検査 3](#)
- 表 4. [\(4\)尿化学検査](#)

※：検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

 (1) 生化学検査 1

※：2015年10月01日から共用基準範囲を採用（基準値の背景が薄い項目）しました。ただし、角括弧 []は臨床判断値を表し、コンピュータチェック (Low、High) に用います。

検査項目	検査所要時間	検査方法	基準値	単位	採取容器	採取量(mL)	備考	基準値の出典(引用)	
Na	1 時間	電極法	138~145	mmol/L (2019.1 変更)	真空採血管 青, 桃, 茶, 茶太のいずれか	1~10 項目 全	溶血不可	共用基準範囲	
Cl		電極法	101~108	mmol/L (2019.1 変更)		血 4			
K		電極法	3.6~4.8	mmol/L (2019.1 変更)		11~30 項目 全			
Ca		アルセナゾ III 法	8.8~10.1	mg/dL		血 5			
Mg		酵素法	1.8~2.4 (2023.4 変更)	mg/dL		31~ 項目 全			臨床検査法 提要 第 35 版
IP		酵素法	2.7~4.6	mg/dL		血 8			共用基準範囲
Zn		比色法	80~130	µg/dL		セット検査, スクリーニン グ 全			参考文献 (亜鉛欠乏 症の診療指 針 2018)
UN		ウレアーゼ・G LDH法 (アンモニア消 去)	8~20	mg/dL		腎機能 全血 4			電解質 全血 4

U A	ウリカーゼ・P OD法	M 3.7~[7.0] 7.8 F 2.6~5.5 [7.0]	mg/dL	肝機能 全血 6 心機能 全血 4	共用基準範 囲+臨床判 断値
Creatinine	酵素比色法	M 0.65~1.07 F 0.46~0.79	mg/dL	脂 質 全血 4	共用基準範 囲
e G F R (G F R 推算式)	計算	60 以上	mL/min/1.73m ²		参考文献 (CKD 診療 ガイド 2012)
T P	ビウレット法	6.6~8.1	g/dL		共用基準範 囲
Albumin	B C P 改良法	4.1~5.1	g/dL		
A-G ratio	計算	1.32~2.23			
T-Bilirubin	B O D 法	0.4~[1.2] 1.5	mg/dL	遮光	共用基準範 囲+臨床判 断値
D-Bilirubin	B O D 法	0~0.4	mg/dL	遮光	臨床検査法 提要 第 35 版
I-Bilirubin	計算	0~0.8 (2019.4 変更)	mg/dL	遮光	
A S T	J S C C 標準 化対応法	13~30	U/L	溶血 不可	共用基準範 囲
A L T	J S C C 標準 化対応法	M 10~[30] 42 F 7~23 [30]	U/L		共用基準範 囲+臨床判 断値
L D (IFCC) (2020.8 名称変 更)	I F C C 法 (2020.8 変更)	124~222	U/L	溶血 不可	共用基準範 囲
C K	J S C C 標準 化対応法	M 59~248 F 41~153	U/L	遮光	
C K-M B	免疫阻害法	0~6	U/L		臨床検査法 提要 第 35 版
A L P (IFCC) (2020.8 名称変 更)	I F C C 法 (2020.8 変更)	38~113	U/L		
A L P (2020.8- J S C C 法換算値)	計算 (IFCC 値を J S C C 法に換算)	106~322	U/L		共用基準範 囲
γ-G T	J S C C 標準 化対応法	M 13~64 F 9~32	U/L		
L A P	G S C C 準拠	30~70 (2019.4 変更)	U/L (2019.4 変更)		臨床検査法 提要 第 34 版

ChE	JSCC標準 化対応法	M 240~486 F 201~421	U/L				共用基準範 囲
Amylase	JSCC標準 化対応法	44~132	U/L				
P-Amylase	免疫阻害法	15~50 (2019.4 変更)	U/L				臨床検査法 提要 第 35 版
T-Chol	COD-POD 法	142~[219] 248	mg/dL				共用基準範 囲 + 臨床判 断値
F-Chol	COD-POD 法	33~63 (2019.4 変更)	mg/dL				試薬添付文 書
エステル比	計算	60~80 (2019.4 変更)	%				臨床検査法 提要 第 35 版
HDL-Chol	酵素法 (直接 法)	M 38 [40]~90 F [40] 48~ 103	mg/dL				共用基準範 囲 + 臨床判 断値
LDL-Chol	酵素法 (直接 法)	65~[139] 163	mg/dL				共用基準範 囲 + 臨床判 断値
LDL/HDL	計算	3.0 未満 (暫定基準値)					臨床側と協 議の上で設 定
TG	GK-GPO法 (遊離グリセ ロール消去)	M 40~[149] 234 F 30~117 [149]	mg/dL				共用基準範 囲 + 臨床判 断値
NEFA	ACS-ACOD 法	0.14~0.85	mEq/L				臨床検査法 提要 第 35 版
Glucose screening	ヘキソキナー ゼ法	73~109	mg/dL				
Glucose	GOD 電極法	空腹時 73~109 食後 140 未満	mg/dL	灰	全血 2 (負荷 血糖 各時間 2)	採血 後静 かに 転倒 混和	共用基準範 囲
Fe	Nitroso-PSAP 法	40~188	μg/dL	黄土	全血 3	鉄の 混入 汚染 に注	

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

(2) 生化学検査 2

検査項目	検査所要時間	検査方法	基準値	単位	採取容器	採取量 (mL)	備考	基準値の出典(引用)
Osmolality	当日	氷点降下法	275~290	mOsm/kg	青	2 mL	保存不可, 遮光・速やかに提出	臨床検査法提要 第35版
ICG		血中停滞率	15分値 0~10	%	青	5・10・15分 各3 mL		
プロカルシトニン	2時間	CLIA	0.05以下	ng/mL	青	3 mL	敗血症(細菌性)の鑑別診断のカットオフ値:0.50ng/mL未満 敗血症(細菌性)の重症度判定のカットオフ値:2.00ng/mL以上 *:2018.04.01 測定法変更	試薬添付文書

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

(3) 生化学検査 3

検査項目	検査所要時間	検査方法	基準値	単位	採取容器	採取量(mL)	備考	基準値の出典(引用)
HbA1c (NGSP)	30分	HPLC法	4.9~6.0	%	灰	2 mL		共用基準範囲
HbF		HPLC法	0~1.5	%				
グリコアルブミン (GA)	1時間	酵素法	12.3~16.5	%	青	3 mL		参考文献(医学と薬学)
髄液Cl	1時間	電極法	120~125	mmol/L H31.1.4 単位変更	スリット	3 mL	材料名明記	臨床検査法提要 第35版
髄液TP		ピロガロール法	10~40	mg/dL				
髄液Glucose		ヘキソキナーゼ法	50~75	mg/dL				

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

(4) 尿化学検査

検査項目	検査所要時間	検査方法	基準値	単位	採取容器	採取量(mL)	一日量正常参考値	基準値の出典(引用)
------	--------	------	-----	----	------	---------	----------	------------

Na	1 時間	電極法		mmol/L (2019.1 変更)	スピッツ	10 mL	125~250 mmol/day (2020.10 変更)	臨床検査法 提要 第 35 版
Cl		電極法		mmol/L (2019.1 変更)			70~250 mmol/day (2019.4 変更)	
K		電極法		mmol/L (2019.1 変更)			50~100 mmol/day (2020.10 変更)	
Ca		アルセナゾ III 法		mg/dL			100~200 mg/day (2019.4 変更)	
IP		酵素法		mg/dL			0.4~0.8 g/day (2019.4 変更)	
UN		ウレアーゼ・G LDH法		mg/dL			14~28 g/day (2019.4 変更)	
UA		ウリカーゼ・P OD法		mg/dL			0.4~0.8 g/day (2019.4 変更)	
Creatinine		酵素比色法		mg/dL			500~1500 mg/day (0.5 ~1.5 g/day, 2019.4 変更)	
TP		ピロガロールレ ッド法		mg/dL			20~120 mg/day (2019.4 変更)	
Amylase		JSCC 標準化対 応法	50~500	U/L			2020.10 基準 値変更	
P-Amylase	免疫阻害法		U/L					
尿蛋白/尿クレアチン 比	計算	0.15 未満	g/g・Cr					
Osmolality	当日	氷点降下法	50~1300	mO sm/Kg			2019.4 基準値 設定	臨床検査法 提要 第 35 版

NAG	1時間	MPT-NAG基質法	<11.5 (2019.4変更)	U/L (2019.4変更)				試薬添付文書
マイクロアルブミン	3時間	免疫比濁法	<30.0 (2019.4変更)	mg/g・Crea			2023.09.01 測定装置変更	試薬添付文書
尿糖	1時間	ヘキソキナーゼ法		mg/dL	スピッツ	10 mL	0.04~0.085 g/day (40~ 85mg/day, 2019.4変更) 2007.05.07 方法変更	臨床検査法 提要 第35 版
負荷尿糖	1時間	ヘキソキナーゼ法		mg/dL	スピッツ	各時間 10 mL	2007.05.07 方法変更	

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く



[検査部ホームページへ戻る](#)



- 1. [血液一般検査](#)
- 2. [凝固・線溶検査](#)
- 3. [血液染色](#)
- 4. [その他](#)

※：検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

1. 血液一般検査

※：2015年10月01日から共用基準範囲を採用（基準値の背景が薄い項目）しました。

検査項目	検査所要時間	検査方法	基準値	単位	採取容器	備考	基準値の出典(引用)
末梢血液一般検査							
白血球数	30分	フローサイトメトリー法	3.3~8.6	$\times 10^3/\mu\text{L}$	紫細(EDTA2K入2 mL)	採血量は, CBC, 網状赤血球数, 末梢血液像の全項目でも, 2 mL で可 検査日 月~金 白血球数, 血色素量, 血小板数 070507 方法変更	共用基準範囲
赤血球数		シースフローDC検出法	M 4.35~5.55 F 3.86~4.92	$\times 10^6/\mu\text{L}$			
血色素量		SLS-ヘモグロビン法	M 13.7~16.8 F 11.6~14.8	g/dL			
ヘマトクリット値		計算	M 40.7~50.1 F 35.1~44.4	%			
血小板数		シースフローDC検出法	158~348	$\times 10^3/\mu\text{L}$			
M C V		ヒストグラムより算定	83.6~98.2	fL			
M C H		計算	27.5~33.2	pg			

MCHC		計算	31.7~35.3	g/dL			
網赤血球	30分	フローサイトメトリー法	0.5~2.5	%	紫細	2021.4 報告単位変更	臨床検査法提要 第35版
			0.05~0.10	$\times 10^6/\mu\text{L}$			
末梢血液像							
(好中球)			(38.5~80.5)	%	紫細	受付時間外の採血時には、ストリッヒを作成し翌日に提出 検査日 月~金 2020.10 基準値変更	臨床検査法提要 第35版
桿状核球	フロー方式		0.5~6.5	%			
分葉核球	30分	フロー方式または目視法	38~74	%			
好酸球	目視法		0~8.5	%			
好塩基球	3時間		0~2.5	%			
リンパ球			16.5~49.5	%			
単球			2~10	%			
好中球一次	血液像迅速報告として「好中球一次報告」を行います。詳細は、 こちら						

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

2. 凝固・線溶検査

検査項目	検査所要時間	検査方法	基準値	単位	採取容器	備考	基準値の出典(引用)				
プロトロンビン時間	1時間	Quick 一段法(散乱光度法)	10.6~13.8 (2019.4 変更)	秒	黒細	1.8 mL 採血 検査日 月~金	院内検討データ				
活性値(PT カッセイ)			76.0~124.0	%							
INR(PT-INR)			0.88~1.12								
活性化部分トロンボプラスチン時間	1時間	Langdell 法(散乱光度法)	21~42	秒			黒細	1.8 mL 採血 検査日 月~金	院内検討データ		
フィブリノーゲン定量		トロンビン時間法(散乱光度法)による凝固終了点検出法	140~340	mg/dL							
血中FDP		ラテックス近赤外比濁法	<5 (2019.4 変更)	$\mu\text{g/mL}$							
アンチトロンビン III(活性値)		発色性合成基質法	80~130 (2019.4 変更)	%							
Dダイマー	4時間	ラテックス近赤外比濁法	<1.0 (2012.3 変更)	$\mu\text{g/mL}$					黒細	1.8 mL 採血 検査日 月~金	試薬添付文書
トロンビン・アンチトロンビン III 複合体(TAT)		時間分解蛍光免疫測定法(TR-FIA)	<3.0	ng/mL							
プラスミン・ α_2 プラスミンインヒビター複合体		ラテックス近赤外比濁法	≤ 0.8	$\mu\text{g/mL}$							
可溶性フィブリンモノマー複合体(SF)		ラテックス凝集法	<5	$\mu\text{g/mL}$							

血小板凝集能	当日中に報告	比濁法			黒4 (4.5mL 2本採血)	予約検査:検査予定日の前日までにオーダー入力 検査日 火・木	臨床検査法提要 第35版に準ずる
--------	--------	-----	--	--	-----------------	--------------------------------	------------------

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

3. 血液染色

検査項目	検査所要時間	検査方法	採取容器	備考
ペルオキシダーゼ染色(末梢血液)	1 ~ 3 日	DAB法	塗抹標本各2~3枚	採取容器「紫細」も可
POD染色(骨髄)			塗抹標本各2~3枚	
アルカリフォスファターゼ染色(末梢血液)		朝長法	塗抹標本各2~3枚	採取容器「紫細」も可
PAS染色(末梢血液)		Periodic acid Schiff 反応	塗抹標本各2~3枚	
PAS染色(骨髄)			塗抹標本各2~3枚	
鉄染色(末梢血液)		ベルリンブルー法	塗抹標本各2~3枚	
Fe染色(骨髄)			塗抹標本各2~3枚	
エステラーゼ染色(末梢血液)		αナフチルブチレート・ナフトール AS-D クロロアセテートエステラーゼ二重染色	塗抹標本各2~3枚	採取容器「紫細」も可
エステラーゼ染色(骨髄)			塗抹標本各2~3枚	
骨髄像染色	メイギムザ染色	塗抹標本各2~3枚		

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

4. その他

検査項目	検査所要時間	検査方法	基準値	単位	採取容器	備考	基準値の出典(引用)
MPO-ANCA	4時間	CLEIA	<3.5	U/mL	青(血清)	採血量は2mLで可 検査日 月~金	試薬添付文書
PR3-ANCA			<3.5	U/mL			

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く



※：2015年10月01日から共用基準範囲を採用（基準値の背景が薄い項目）しました。

検査項目	検査所要時間	検査方法	基準値	単位	検査日	備考	基準値の出典 (引用)
CRP	1時間	ラテックス凝集法	0~0.14	mg/dL	月~金	2007.05.07 方法変更	共用基準範囲
リウマチ因子 (定量)	3時間	ラテックス凝集比濁法	≤15	IU/mL	月~金	2023.09.01 測定装置変更	試薬添付文書
ASO		ラテックス凝集比濁法	≤239 (2023.9 変更)	IU/mL			
寒冷凝集反応	2~6日	赤血球凝集反応	<64 (2019.4 変更)	倍	火・木	冷却不可	臨床検査法提要 第35版
マイコプラズマ抗体	当日~5日	受身凝集反応 (ゼラチン粒子)	(-) [<40 倍]	倍	火・木 14時到着分まで		試薬添付文書
IgG定量	3時間	免疫比濁法	861~1747	mg/dL	月~金	2023.09.01 測定装置変更	共用基準範囲
IgA定量		免疫比濁法	93~393	mg/dL			
IgM定量		免疫比濁法	M 33~183 F 50~269	mg/dL			
C3 定量		免疫比濁法	73~138	mg/dL			
C4 定量		免疫比濁法	11~31	mg/dL			
直接クームステスト	4時間	赤血球凝集反応	(-)		月~金	分離剤不可, 冷却不可, 個別に採血	臨床検査法提要 第35版
間接クームステスト		赤血球凝集反応	(-)				
抗ds-DNA抗体		ELISA	≤12.0	IU/mL	水	2015.09.30 まで	試薬添付文書
		CLEIA			月~金	2015.07.01 測定法変更	
抗ss-DNA抗体	ELISA	≤25.0	AU/mL	水	2015.09.30 まで		
	CLEIA			月~金	2015.07.01 測定法変更		
梅毒RPR定性	3時間	ラテックス凝集法	(-)		月~金	髄液の場合はスピッツに1mL 2011.01.04 検査内容変更	
梅毒TP抗体定性		CLIA	(-)				

梅毒 R P R 定 量		ラテックス凝 集法	<1.0	RU RU : RPR Units			
梅毒 T P 抗体 定量		CLIA	<1.00	S/CO S/CO : Sample/Cut Off			
フェリチン	3 時間	CLIA	M 21.8~ 274.7 F 4.6~204.0	ng/mL	月~金	2020.10.01 検査部内実施	試薬添付文書

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

検査項目	検査 所要時 間	検査方法	基準値	単位	検査日	備考	基準値の 出典(引用)
HBs抗原	3 時間	CLIA	(-) [<0.05]	IU/mL	月~金	2007.05.07 方法・基 準値変更 S/CO: 検体の蛍光 強度の変化率/陽性 ベース標準液の蛍 光強度の変化率	試薬添付 文書
HBs抗体		CLIA	(-) [<10.0]	mIU/mL			
HCV抗体		CLIA	(-) [S/CO <1.0]				
HBe抗原		CLIA	(-) [S/CO <1.0]				
HBe抗体		CLIA	(-) [抑制率 $<50\%$]				
HBc抗体		CLIA	(-) [S/CO <1.0]				
IgM型HBc抗体		CLIA	(-) [S/CO <1.0]				
HA抗体		CLIA	(-) [S/CO <1.0]				
IgM型HA抗体		CLIA	(-) [S/CO <0.8]				
HBV 核酸定量 (HBV-DNA)	当日~5 日	リアルタイム PCR 法	検出せず	LogIU/mL	火・木 10 時到着分 まで	個別に採血	
HIV-抗原/抗体	3 時間	CLIA	(-)		月~金	2016.09.01 検査日 変更	
HTLV-I 抗体		CLIA	(-)		月~金	2016.09.01 方法・検 査日変更	
KL-6		CLEIA	<500	U/mL	月~金	2016.09.01 検査日 変更	
総IgE	当日~5 日	FEIA	≤ 170	IU/mL	原則 月曜日		
特異的IgE		FEIA	<0.35	UA/mL	原則 月曜日	#1	
インターロイキン 2 受容体	3 時間	ラテックス凝集比濁 法	204~587	U/mL	月~金	2023.09 変更	
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプ チド (BNP)	1 時間	CLIA	≤ 18.4	pg/mL	月~金	2011.12.01 検査部 内実施	

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

検査項目	検査 所要時 間	検査方法	基準値	単位	検査日	備考	基準値の 出典(引用)
------	----------------	------	-----	----	-----	----	----------------

TSH(甲状腺刺激ホルモン)		CLIA	0.35~4.94	μIU/mL	月~金	*(2007.07.02 検査部内実施)	
遊離T4精密		CLIA	0.70~1.48	ng/dL	月~金	2018.04.01 試薬変更	試薬添付文書
遊離T3精密		CLIA	1.68~3.67	pg/mL	月~金	2021.02.04 基準値変更	
αフェトプロテイン(AFP)精密		CLIA	<13.4	ng/mL	月~金	*(2007.07.02 検査部内実施)	院内検討データ
αフェトプロテインレクチン分画(AFPレクチン分画)	2 時間	LBA 法	L3 分画 10.0 未満	%	月~金	(2014.06.01 検査部内実施)	
癌胎児性抗原(CEA)精密		CLIA	≤5.0	ng/mL	月~金	*(2007.07.02 検査部内実施)	
CA19-9精密		CLIA	≤37.0	U/mL	月~金	*(2007.07.02 検査部内実施)	試薬添付文書
CA125精密		CLIA	≤35.0	U/mL	月~金	*(2007.07.02 検査部内実施)	
扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)精密		CLIA	≤1.5	ng/mL	月~金	*(2007.07.02 検査部内実施)	
PA(PSA)精密		CLIA	≤4.00	ng/mL	月~金	*(2007.07.02 検査部内実施)	
サイトケラチン19フラグメント精密(シフラ21-1)		3 時間	CLIA	≤3.5	ng/mL	月~金	(2016.09.01 方法・検査日変更)
PIVKA-II定量	CLEIA		<40	mAU/mL	月~金	(2012.06.01 検査部内実施)	
メトレキサート血中濃度	2 時間	CLIA	48H:1 未満 72H:0.1 未満 注意:コンピュータの異常値チェックは48Hで行います。	μmol/L	月~金	(2015.04.01 検査部内実施)	試薬添付文書

* : 至急検査対応可

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く



[検査部ホームページへ戻る](#)

遊離HCG-β (HCG-β サブユニット)

現行試薬の販売中止に伴い、同一メーカーの代替試薬に変更いたします。本変更に伴い、項目コード、基準値、報告下限が変更となります。新基準値は測定試薬の添付文書記載値です。

変更内容

変更内容	新	旧
項目コード	13181	12834
検査項目名	遊離HCG-β (HCG-β サブユニット) *1,2	同左
検査方法	CLIA	同左
検体量	血清 0.3mL [容器番号:01番]	同左
保存方法	冷蔵	同左
基準値	1.00 ng/mL 未満	0.28 ng/mL 未満
所要日数	2~3日	同左
報告下限	1.00 ng/mL 未満	0.28 ng/mL 未満
報告上限	2,000 ng/mL 以上	同左
報告桁数	小数2位、有効3桁	同左
検査実施料/判断料	132点/144点 (生化学的検査 (Ⅱ) 判断料)	同左
備考	*1: 本検査は、遊離型のHCG-βのみを測定します (LHとの交差反応は認められません)。 *2: 妊娠の有無、妊娠週数を必ず明記してください。	

新旧二法の相関

